

令和元年度

公立大学法人福井県立大学業務実績評価書

令和2年8月

公立大学法人福井県立大学評価委員会

目 次

本評価の位置づけ	1
I 評価結果	1
1 全体評価	1
2 分野別評価	2
II 項目別評価	6
新学部・新学科の創設	6
教育	6
研究・地域貢献	8
国際化・情報発信	9
業務運営	10

《本評価の位置づけ》

本評価は、公立大学法人福井県立大学評価委員会が、地方独立行政法人法第78条の2第1項の規定に基づき、令和元年度に法人が中期計画に基づき行った業務実績を評価するものである。

評価に当たっては、中期計画で取り組んだ9項目を分野別に、法人からの聴き取り等を参考に、法人が行った自己点検・評価を基にその妥当性の検証と評価を行った。

I 評価結果

1 全体評価

令和元年度の業務実績に対する評価結果は次のとおりである。

目標達成に向けて計画の実施に努めており、**概ね計画どおり達成した**と判断される。取り組んだ9項目の評価については、次のとおりである。

「計画を上回って実施している」	1 計画
「計画を順調に実施している」	7 計画
「計画を十分に達していない」	1 計画

特に評価できる点は、次のとおりである。

- ・創造農学科の創設に伴い、食農環境分野の活性化に取り組む実務者等とのネットワークを構築するため、自治体・JA・農家等が参加する「ふくい農力アップ！ネットワーク」の設立、かみなか農楽舎・若狭町との「「農」人材育成協定の締結」など、多様な団体と連携を強化した。

2 分野別評価

1 のとおり、令和元年度計画を概ね計画どおり進めたと認められるが、元年度の進行状況を踏まえた評価委員会の提言は、次のとおりである。

新学部・新学科の創設

- ・水産増養殖を学ぶ新学科の創設が福井の水産業の発展など地域貢献につながることを期待する。
- ・水産増養殖を学ぶ新学科など、新学部・新学科創設の目的を実現するためのロードマップを作成し、各年度の計画を着実に進める必要がある。
- ・すでに全国で100校を超える大学が看護学の博士課程を設置している中、福井県立大学が看護学の博士課程を設置する意義やどのように特色を出していくか、具体的に検討していく必要がある。

教育

- ・多様な学生を受け入れるという点において、外国人留学生の割合をさらに高める必要がある。
- ・福井県の持続可能性を支えていくためには地域への人材輩出が重要であることから、卒業生の県内就職割合をさらに高める必要がある。

研究・地域貢献

- ・ベンチャー企業の設立支援制度を創設したこと、新たな民間企業と連携を図ったことは前向きであり評価できる。引き続き支援を続け、地域貢献に寄与することを期待する。
- ・教員一人当たり著書・論文・特許出願数を増やすことが必要である。
- ・農業の現場では若手の人材確保が問題になっている。創造農学科の多くの学生が現場で実習を行うことにより、県内に就職し、地域に貢献することを期待する。

国際化・情報発信・業務運営

- ・国際化は新型コロナウイルス感染症の影響により今後さらに難しくなっていくことが考えられる。環境変化にどのように対応していくのか検討する必要がある。
- ・福井県立大学の起源である福井県農業試験場内の「福井県農業技術員養成課程」設置から100年を迎えるにあたり、ロゴマークを作成し、情報発信を行ったことは評価できる。今後、新学部・新学科の創設を含め、大学の魅力を発信していくことを期待する。
- ・勤続年数に制限がなく、福井県立大学において長い期間経験を積むことのできるプロパー職員は必要不可欠であり、採用を決定したことは評価できる。

■中期計画分野別評価結果

中期計画分野	項目数	評 価 結 果			
		S 計画を上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分に 実施していない	C 計画を 実施していない
新学部・新学科の創設	1		1		
教 育	3		3		
研 究	1			1	
地 域 貢 献	1	1			
国 際 化	1		1		
情 報 発 信	1		1		
業 務 運 営	1		1		
計	9	1	7	1	

■中期計画分野別評価結果

評価項目（中期計画）		法人 評価	委員会 評価
I	新学部・新学科の創設	S	A
II	教育		
	1) 教育内容、実施体制の強化	A	A
	2) 多様な学生の受入れ	A	A
	3) 学生への支援	A	A
III	研究	A	B
IV	地域貢献	S	S
V	国際化	A	A
VI	情報発信	A	A
VII	業務運営	A	A

分野		法人の自己点検・評価	概要	評価委員会の評価	特記事項
I 新学部・新学科の創設		S	<p><総括> 令和2年4月、生物資源学部に新たに「創造農学科」を開設し27名が入学したほか、水産増養殖を学ぶ新学科の開設に向け、カリキュラム素案作成や施設整備にかかる予算確保等を行った。</p> <p><主な取組み> ・創造農学科の開設に向け、あわらキャンパスの整備や広報活動等を行った。令和2年4月の入学者は定員25名を上回る27名となった。 ・水産増養殖を学ぶ新学科のカリキュラム素案作成や施設整備に向けた検討、整備にかかる予算の確保等を行った。 ・古生物関係新学部設置に関する有識者会議を開催し、教育研究や定員等について協議を行った。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 水産増養殖を学ぶ新学科の創設が地域貢献につながることを期待する。 新学部・新学科創設の目的を実現するためのロードマップを作成し、各年度の計画を着実に進める必要がある。
II 教育	1 教育の内容、教育実施体制の強化	A	<p><総括> 各学部においてフィールドワークを積極的に実施したほか、「特任講師」制度を創設する等、「福井県のすべてがキャンパス。県民のすべてが先生」を目指した教育を展開した。</p> <p><主な取組み> ・永平寺町高齢者等との交流を通じ地域の健康課題について考えるフィールドワークを行う等、各学部で積極的なアクティブラーニング授業を実施した。 ・実務家が教員となり実務教育を担う「特任講師」制度を新設し、令和2年度から創造農学科での実践指導に当たる講師の採用選考を行った。 ・経済学部生がこれまでの学びを生かすとともに、県大生の食生活をサポートするため、学内におにぎり屋台を出店した。大学でもPR活動や場所を提供するなど支援を行った。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 看護学科の健康課題について考えるフィールドワークや海洋生物資源学科の操業体験など現場を重視している点は評価できる。

分野		法人の自己 点検・評価	概要	評価委員会 の評価	特記事項
II 教育	2 多様な学生の 受入れ	A	<p><総括> 人物評価を重視した入試制度への改善を進めるため、総合型選抜や面接試験を創造農学科の令和2年度入試において実施したほか、海洋生物資源学部・看護福祉学部でも令和3年度に導入を決定した。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造農学科において、本学初となる総合型選抜を導入したほか、一般選抜で面接試験を実施した。 ・令和3年度入学者選抜において、海洋生物資源学部で総合型選抜の導入、看護学一般選抜で面接試験の導入を決定した。 ・外国人留学生の確保に向け、留学生が参加する進学説明会での個別相談会や日本語学校へのPR活動を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学者割合をさらに高める必要がある。
	3 学生への支援	A	<p><総括> 県内企業経営者等を招いたキャリア教育や内定者等による就活体験報告会の開催等、幅広いキャリア支援により98.4%の高い就職率を維持したほか、手厚い学生支援等により卒業生満足度90%を達成した。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内企業経営者等を招いたキャリア教育の講義を実施したほか、2月に195社が参加する合同企業面談会を開催した。 ・約90社を訪問し県大をPRしたほか、採用情報等を収集した。 ・企業で働く県大OB・OGを招いた懇談会を開催し3年生が約50名参加したほか、民間企業や公務員に内定した4年生の就職活動体験報告会を開催し約140名が参加した。 	A	

分野	法人の自己 点検・評価	概要	評価委員会 の評価	特記事項
Ⅲ 研究	A	<p><総括> 大学発ベンチャー企業設立支援制度を創設し1社の設立を支援したほか、積極的に研究成果を記者発表する等、県大の研究成果をPRした。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学発ベンチャー企業設立支援制度を創設し、1社の設立を支援する等、外部資金による先端的研究を推進する環境を整備した。 ・各学部等で先端的研究や地域課題解決につながる研究を進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ▶日本初となるハイブリッド小麦を開発 ▶海藻アカモクの抗肥満・抗糖尿病作用を発見 ▶IoTを活用した給餌量管理による養殖を試行 ▶最も原始的な新属新種の鳥類化石を発見 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員一人当たりの著書・論文・特許出願数の増加に向けた取組みが必要である。
Ⅳ 地域貢献	S	<p><総括> 聴講生制度等の広報・周知や公開講座の充実を進めたほか、県内農業関係者と「ふくい農力アップ！ネットワーク」を設立する等、県民の学び、県民・地域とのつながりを強化する活動を展開した。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造農学科での学びを体感する講座や福井の歴史偉人・地場産業を学ぶ講座等、新学部・新学科、福井をテーマにした13の特別企画講座を開催した。 ・地域課題研究に関する情報交換と学外とのネットワークを拡大するため、地域連携本部と県内企業等で「ふくい環境配慮型社会研究会」を設立した。 ・食農環境分野の活性化に取り組む実務者等とのネットワークを構築するため、創造農学科が中心となり自治体やJA、農家等が参加する「ふくい農力アップ！ネットワーク」を設立した。また、創造農 	S	

分野	法人の自己点検・評価	概要	評価委員会の評価	特記事項
		学科開設に伴い、あわら市と包括協定、かみなか農楽舎・若狭町と人材育成協定を締結した。		
V 国際化	A	<p><総括> 新たに3つの大学と学術交流協定を締結したほか、海外留学の助成制度を拡充する等、学生の留学機会の増進を図った。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに浙江工商大学（中国）、チチェスターカレッジ（イギリス）、トロント大学（カナダ）と学術交流協定を締結した。既存協定校を含め学生8名を派遣するとともに、新たな交換留学生を23名受け入れた。 ・ゼミ等が海外で行う研究活動にかかる経費、院生の海外学会参加にかかる経費に対する助成を行い、30人を支援した。 ・新たに、ボランティア活動等、海外で自主的研修を対象とした助成制度を創設し、5人を支援した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に対して、どのように対応していくのか検討する必要がある。
VI 情報発信	A	<p><総括> 創造農学科の開設にあわせ、県内外の高校への訪問や大学案内、大学広報誌、HP等によるPRを実施したほか、UIデザインを制作し県大のブランド化を推進した。</p> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学志願者の多い愛知県等の高校を訪問し創造農学科のPR活動を行ったほか、民間の大学情報サイトに各学部学科等の教育研究内容を掲載した。 ・これまでの学章や大学ロゴ等を再整理した県大UIデザインを制作した。統一的なルールに従って使用を進めた。 	A	

分野	法人の自己 点検・評価	概要	評価委員会 の評価	特記事項
VII 業務運営	A	<p><総括> 令和3年度からのプロパー職員採用に向け準備を進めたほか、計画的・効率的な予算執行に努めた。</p> <hr/> <p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度からのプロパー職員2名の採用を決定し、採用に向け準備を進めた。 ・財政運営面において、運営交付金が毎年削減される傾向の中、効率的な執行と経費削減、財源の確保に努めた。 	A	

公立大学法人福井県立大学評価委員会 委員名簿

氏 名	職	備 考
あさくら ゆき 朝倉 雪	農業	
しらす としろう 白須 敏朗	一般社団法人大日本水産会 会長	委員長
てしま まさこ 豊嶋 雅子	フクビ化学工業(株)取締役執行役員	
ふるたに きよかず 古谷 清和	敦賀気比高等学校長	
やまもと のりこ 山本 則子	東京大学大学院医学系研究科健康科学・ 看護学専攻 高齢者在宅長期ケア看護学/ 緩和ケア看護分野 教授	

(50 音順)